

大雪山

1 概況

上空からの観測では、噴気の状態や火口の状況に変化はなく、火山活動は静穏な状態です。

2 上空からの観測結果

2日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

旭岳地獄谷爆裂火口では、火口底に点在する数カ所の噴気孔から白色の噴気が認められ、前回（2005年9月12日）と比べて特に変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、各噴気孔に対応する高温域が認められました。

御鉢平カルデラでは噴気は認められませんでした。カルデラ内の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

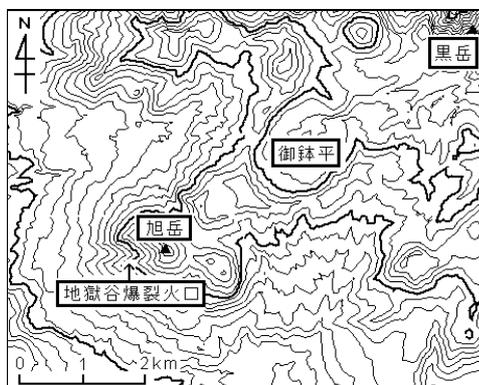


図1 大雪山 火口周辺図

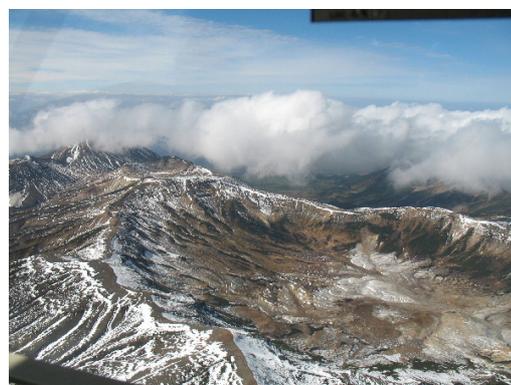


図2 大雪山 御鉢平カルデラ（2006年10月2日、北東側上空から撮影、北海道開発局の協力による）

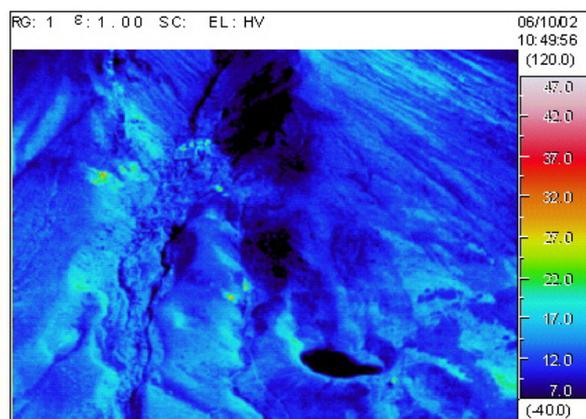


図3 大雪山 地獄谷爆裂火口の表面温度分布（2006年10月2日、西側上空から撮影、北海道開発局の協力による）

*：赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

参 考：

大雪山は約10個の成層火山・溶岩円頂丘からなる火山群です。中央部には御鉢平カルデラ（直径約2km）があり、噴気孔や温泉が存在しています。1958年と1961年にはカルデラ内で火山ガスによる死亡事故がありました。火山群の南西方に位置する旭岳（2,290m）は最も新しく噴出した火山で、その西側斜面には西に開いた地獄谷爆裂火口があり、やや活発な噴気活動が続いています。最新の噴火は500～600年前と推定されています。